

O-84

血管指標 AVI、API と運動耐容能との関連について
～医療用電子血圧計 AVE-1500 を用いた検討～

田澤泰、森信芳、三浦平寛、鈴木文歌、高橋珠緒、小川佳子、
伊藤修、上月正博

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野

【はじめに】 運動耐容能は心疾患患者における生命予後
を規定する因子の1つである。運動耐容能は多くの因
子により規定されるが、動脈硬化の生理検査指標と運動
耐容能についての関連をみた報告は少ない。今回、新
たな動脈硬化指標として Arterial Velocity pulse Index(AVI)、
Arterial Pressure volume Index(API) について医療用電子血
圧計 AVE-1500 (PASESA(R)、志成データム社) を用いて
検討した。

【対象】 東北大学内部障害リハビリテーション科を心臓リ
ハビリ目的で外来受診した患者および入院した患者で医
療用電子血圧計 AVE-1500 を用いて AVI、API を測定した
患者。

【方法】 医療用電子血圧計 AVE-1500 に記録された AVI、
API と PeakVO₂、運動負荷時のバイタルサイン変化との
関係をみた。また冠動脈疾患の有無で AVI、API を比較した。

【結果】 116 例を分析した。平均年齢は 61 歳であった。
AVI は PeakVO₂ と有意な相関関係がみられ、男性でよく
相関していた。また AVI は運動負荷時の心拍数変化と相
関していた。AVI は過去に冠動脈造影で労作性狭心症も
しくは急性冠症候群と診断された群で、非冠動脈疾患群
に比して年齢で補正後も有意に高値であった。

【結論】 AVI は運動耐容能および冠動脈疾患と関連してい
る可能性が示唆された。